

T-3262 の産婦人科領域における臨床的検討

平林 光司・岡田 悦子

国立福山病院産婦人科*

新しいピリドンカルボン酸系合成抗菌剤 T-3262 について臨床的検討を行い、以下の成績を得た。

1) 産婦人科領域の感染症患者 8 例に本剤 1 回 150 mg 1 日 2～3 回、7 日間経口投与した。産褥子宮内感染 1 例、骨盤腹膜炎 2 例、腹壁膿瘍 3 例、乳腺炎 1 例、膀胱炎 1 例の計 8 例の臨床効果は、著効 1 例、有効 7 例であり、全例有効以上の成績であった。

2) 副作用は、特記すべきものはなく、臨床検査値については、1 例に LDH の上昇を認めた。

Key words : T-3262, 合成抗菌剤, 産婦人科感染症

T-3262 は富山化学工業(株)総合研究所で合成、スクリーニングされた新しい経口合成抗菌剤で、Fig. 1 に示すような構造式を有している。本剤の抗菌スペクトルは従来のピリドンカルボン酸系に比べ特に、*Staphylococcus aureus*, *Streptococcus*, *Enterococcus faecalis* などのグラム陽性菌と *Bacteroides fragilis*, *Peptostreptococcus* sp. などの嫌気性菌に強い抗菌力を示す¹⁾。

今回、この T-3262 について産婦人科領域での臨床的検討を行う機会を得たので、その成績を以下に報告する。

I. 方 法

産婦人科領域の感染症を対象とし、昭和 62 年 2 月から 7 月までの間に国立福山病院産婦人科に入院した 6 例と外来受診の 2 例の産婦人科感染症に使用した。症例は、Table 1 に示す通り、産褥子宮内感染 1 例、骨盤内感染 2 例、腹壁膿瘍 3 例、乳腺炎 1 例、膀胱炎 1 例の合計 8 例である。投与方法は 1 回 150 mg 1 日 2～3 回、7 日間の経口投与とした。

効果判定は、起炎菌の消長、自他覚所見の推移、検査所見の変化から総合的に判定し、主要自他覚症状が 3 日以内に著しく改善し治癒に至った場合を著効とし、主要自他覚症状が 3 日以内に改善の傾向を示し、その後治癒

した場合を有効とし、3 日経過しても改善しない場合は無効とした。また、手術や切開などの外科的療法を併用して著効であったものは、著効とせず有効とした。

また、自他覚的副作用と、本剤投与前後の臨床検査値から、安全性の検討を行った。

II. 成 績

1. 疾患別臨床効果

Table 1 に症例の一覧を示した。産褥子宮内感染の 1 例は、分娩後に、発熱、膿性悪露を呈した症例であり、投与開始時の検査所見は体温 37.9°C、WBC 9500、CRP 2+ であり、T-3262 1 回 150 mg 1 日 3 回の投与を開始した。臨床的には 7 日間投与で改善し、有効と判定した。また投与開始時に悪露中より *Staphylococcus epidermidis*, *Escherichia coli* が分離され、6 日後の検査で膿性悪露の消失は認められたが、*E. coli* が消失せず細菌学的には一部消失と判定した。骨盤内感染の 2 例はいずれも子宮筋腫術後に発熱を呈した症例であり、臨床所見上改善を示し、有効と判定した。また 1 例で腹腔内より *S. epidermidis*, *Enterococcus faecium*, *Corynebacterium* sp., *Peptostreptococcus magnus* が検出されたが、治癒のため投与後の検査は実施せず、細菌学的効果は判定不能とした。

腹壁膿瘍の 3 例は全例有効で膿より、*S. epidermidis* + *Staphylococcus haemolyticus* + *E. faecalis*, *S. aureus*, *E. faecalis* が分離され、すべて消失した。

乳腺炎の 1 例は、乳首腫大、疼痛を訴え来院した症例であり、細菌学的効果は不明であったが本剤 7 日間の投与で有効であった。

膀胱炎の 1 例は、頻尿、排尿痛を訴え来院した症例で、本剤投与後の速やかな症状の改善と起炎菌 *E. coli*

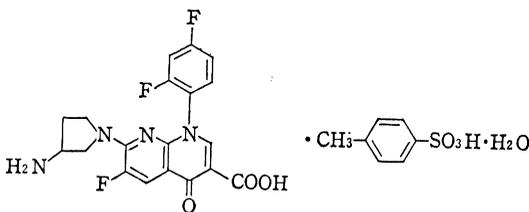


Fig. 1. Chemical structure of T-3262.

* 〒720 福山市沖野上町 4-14-17

Table 1. Clinical summary treated with T-3262

No.	Age	Diagnosis	Underlying disease	Organism Before After	Antibiotic before T-3262 treatment	Treatment		Clinical effect	Bacteriological effect	Adverse effect	
						Daily dose (mg×time)	Duration (days)				
1	34	Puerperal intrauterine infection	None	<i>E. coli</i> <i>S. epidermidis</i> <i>E. coli</i>	None	150×3	7	3.15	Good	Partially eradicated	None
2	37	Pelvic peritonitis	Myoma uteri	None	CEZ	150×3	7	3.15	Good	Unknown	None
3	52	Pelvic peritonitis	Megalo myoma uteri	<i>S. epidermidis</i> <i>E. faecium</i> <i>Corynebacterium</i> sp. <i>P. magnus</i> Not tested	None	150×2	7	2.1	Good	Unknown	None
4	55	Abdominal abscess	Ovarian cancer	<i>S. epidermidis</i> <i>S. haemolyticus</i> <i>E. faecalis</i> (-)	None	150×2	7	2.1	Good	Eradicated	None
5	33	Abdominal abscess	Cesarean section	<i>S. aureus</i> (-)	None	150×3	7	3.15	Good	Eradicated	None
6	78	Abdominal abscess	Endometrial cancer	<i>E. faecalis</i> (-)	None	150×3	7	3.15	Good	Eradicated	None
7	26	Mastitis	None	None	None	150×3	7	3.15	Good	Unknown	None
8	28	Cystitis	None	<i>E. coli</i> (-)	None	150×3	7	3.15	Excellent	Eradicated	None

CEZ : cefazolin

Table 2. Laboratory findings of cases treated with T-3262

Case No.		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8
RBC ($\times 10^4/\text{mm}^3$)	B	451	417	486		451	244	468	434
	A	459	464	456		505	268	460	
Hb (g/dl)	B	12.0	11.0	14.3		9.5	7.5	13.2	13.3
	A	12.3	12.7	13.5		11.2	8.0	13.0	
WBC ($/\text{mm}^3$)	B	9,500	9,100	7,400	7,800	22,900	9,500	6,600	8,200
	A	5,900	3,900	4,100	5,400	5,800	9,600	5,200	8,500
Eos. (%)	B	1	1	2	0	0	1	3	2
	A	7	3	2	1	0	2	2	
Platelet ($\times 10^4/\text{mm}^3$)	B	35.2	41	16.5	25.5	28.1	28.8	18.3	18.7
	A	44.9		19.3	20.5	36.5	40.3		
GOT (KU)	B	16	27	28	19	24	18	10	11
	A	18	11	20	45	18	10	11	12
GPT (KU)	B	6	19	27	8	7	10	8	7
	A	26	13	18	26	10	21	8	10
Al-P (KU)	B	14.9	10.0	1.0	3.7	5.8	13.5	5.6	5.1
	A	13.1	10.1	1.2	5.1	6.2	10.4	6.1	4.9
LDH (IU/l)	B	450	107	304	929	261	220	262	300
	A	642	105	361	1,016	241	273	280	316
BUN (mg/dl)	B	10	11	7	14	11	11	11	11
	A	13	10	17	12	12	12	10	10
Cr (mg/dl)	B	0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	0.7	0.8	0.8
	A	0.6	0.8	0.8	0.9	0.8	0.6	0.7	0.8

B : Before A : After

の消失を認め、著効と判定した。

なお、本剤によると思われる自覚的副作用は無く、臨床検査値異常は、1例にLDHの上昇(case 1)を認めた(Table 2)。

III. 考 案

近年、経口合成抗菌剤、特に、ピリドンカルボン酸系の開発が非常に盛んである^{2,3)}。その中で T-3262 は、グラム陽性菌、陰性菌、嫌気性菌と幅広い抗菌スペクトルを有し、特にグラム陽性菌と嫌気性菌に対しては従来の合成抗菌剤に比べ最も良い抗菌力を示している¹⁾。産婦人科領域感染症の場合、各種の菌が分離され、また混合感染も多く経験するため、本剤のように広い抗菌スペクトルと強い抗菌力を有する薬剤が有用と思われる。

今回、我々の行った産婦人科領域感染症においても、グラム陽性菌として *S. aureus*, *S. epidermidis*, *E. faecalis* など6菌種9株、グラム陰性菌として *E. coli* 2株、嫌気性菌として *P. magnus* 1株が分離された。この中で産褥子宮内感染の1例で *E. coli* の消失を認め

なかったが、他の細菌学的効果判定の可能であった4例ではすべて菌の消失を認めた。また、細菌学的効果判定不明であった骨盤腹膜炎の例でも臨床的には有効であった。このことから我々の臨床結果は、本剤の十分な組織への移行と細菌学的特長を良く反映したものと考えられる。

また、本剤によると思われる自覚的副作用は無く、臨床検査値異常はLDHの上昇1例であった。

以上から、T-3262 は1回 150 mg 1日3回の投与で、産婦人科領域感染症に治療効果が期待できると考えられる。

文 献

- 1) 第34回日本化学療法学会東日本支部総会、新薬シンポジウム。T-3262、東京、1987
- 2) 西野武志：キノロン系（ピリドンカルボン酸系）抗菌薬の *in vitro* および *in vivo* 抗菌力について。臨床と微生物 14: 143~152, 1987
- 3) 勝 正孝, 松岡康夫：合成抗菌剤。臨床成人病 7 (Supplements): 108~115, 1987

T-3262 IN GYNECOLOGY AND OBSTETRICS

KOJI HIRABAYASHI and ETSUKO OKADA

Department of Obstetrics and Gynecology, National Fukuyama Hospital
4-14-17 Okinogami-cho, Fukuyama-shi 720, Japan

We conducted a clinical study on the new antimicrobial agent, T-3262.

1) T-3262 was administered to 8 patients with gynecological and obstetric infections by p. o. administration at a dose of 150 mg, 2-3 times daily for 7 days. Diagnoses were: puerperal intrauterine infection in 1 patient, pelvic peritonitis in 2, abdominal abscess in 3, and mastitis and cystitis in 1 patient each. Clinical efficacy was excellent in 1 and good in 7 patients. All patients treated with T-3262 responded well clinically.

2) No remarkable side effects were found and laboratory findings revealed elevation of LDH in one patient.